

環境月報

*Environmental Activity
Monthly Report 10.Norvember*

11
'10 Nov.1-30



サンシングループ

サンシングループ環境方針



環境理念

サンシングループは、商社・開発技術・要素技術 これら3つの機能のシナジー効果を追求し、継続的な製品供給とRoHS対応製品の開発など地球環境にやさしい先進技術を通し、電機業界および社会へ貢献して参ります。とくに、地球環境保全のための諸活動を重要なCSRと認識し、継続企業としての責務を果たしつつ、将来にわたり地球環境の保全に貢献して参ります。

環境方針

1. 事業活動において、省資源化、廃棄物質の削減、環境関連物質の管理を徹底し、環境の維持・改善および環境汚染の予防をはかって参ります。
2. 環境に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスを徹底して遂行し、環境保全に貢献して参ります。
3. 各々のグループ会社および事業部において、事業活動に応じた具体的な目的・目標を設定し、数値により管理できる判りやすい環境管理システムを構築・運営して参ります。
4. 環境管理システムは、定期的な内部監査・マネジメントレビューをおこない、実態に沿った具体的な継続改善をはかって参ります。
5. この方針は文書化し、当グループのステークホルダーに対して開示をおこない、当グループの諸活動に関わるすべての人々によって一步一步、着実に具現化して参ります。

平成19年8月24日
サンシングループ
代表 石井宏宗

石井宏宗

今月のグループ代表の一言

今月のグループ代表の一言



「先月、名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議 (COP10) が開催された。地球環境の保全が叫ばれるなか、世界からの注目度も高い会議である。

ところが当のわが国においては、さして話題が盛り上がらないような印象を受けた。それは遵守義務のない目標値が決議採択され、静かに閉幕したからだけではないだろう。

やはりわが国の環境意識はまだまだ脆弱なのだ。隣国の中・露などのハチャメチャな国との対比はともかく、環境先進国の北欧やドイツに肩を並べる技術力はあるというのに。

政治・官僚が低レベルということは頷けるが、マスコミを筆頭に民間も同レベルといえる。これだけわが国のレピュテーションを高め、経済的にもイノベーションをもたらすチャンスが、まざまざと目の前をとおり過ぎていく。

残念ながら、わが国の環境運動は“草の根”で有志がコツコツと積み上げていくほかない」

SANSHIN GROUP
代表 石井宏宗

11月号 INDEX

11月号 INDEX



PAGE 1 ……今月の表紙

PAGE 2 ……サンシングループ環境方針

PAGE 3 ……今月のグループ代表の一言

PAGE 4 ……INDEX

PAGE 5 ……今月のトピックス

PAGE 5 ……日本の廃棄食料の現状

各管理項目の今月の状況

- 各項目の今月の監視測定結果詳報 -

PAGE 6 ……エコ検定

PAGE 7 ……各廃棄物(SSD / 本社)

PAGE 8 ……各廃棄物の割合(SSD / 本社)

PAGE 9 ……ペットボトルのキャップ(SSDG)
使用済み切手(SSDG)

PAGE 10 ……コピー用紙使用量(SSD / 本社・関西)

PAGE 11 ……電力使用量(SSD / 本社・関西)

PAGE 12 ……電力使用量(SKW / 朝日)(SFN)

PAGE 13 ……各部門の活動報告・提案

PAGE 13 ……環境条例の基本と管理の
ポイントセミナー参加のご報告
(SSD / CSG)

今月のトピックス

日本の廃棄食料の現状



コンビニ・スーパー・宴会場などで、毎日のように、大量のまだ食べられる食べ物がゴミとして捨てられています。

日本の穀物自給率は28%、食べ物全体(カロリー)でも40%。私たちが食べているものの大半が海外からの輸入です。



< 廃棄食料の現状 >

日本の廃棄食料はカロリーで26%、年間約2000万トンになります。日本の穀物生産量が約1000万トンですから、その2倍を廃棄していることになります。



廃棄食料を燃やして発生するCO₂

廃棄食料のうち、飼料や肥料として再利用されている量は、わずか25%に過ぎず、食品業界からの廃棄の半分と家庭からの生ごみは、ほぼ全てが焼却処分されています。

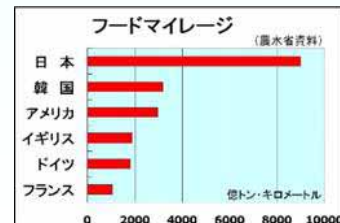
この焼却処分で排出されたCO₂は約4500万トン。(=日本のCO₂排出量の約3%)

廃棄食料をなくすことだけで、京都議定書で約束した日本のCO₂排出目標の半分以上をクリアできる程度の量があります。

廃棄食料を輸送するために排出されたCO₂は？

毎日の生活の中で捨てている食料の中には、牛肉、バナナ、など海外から輸入しているものもたくさんあります。日本の輸入食料は年間約5800万トンあり、その輸入食料のフードマイレージは、9000億トン・キロメートルで、世界の中でも突出しています。

日本の食料輸入だけで、日本の排出するCO₂の1%以上(1690万トン)になり、このうち、食べることなく廃棄された食料の輸入のためのCO₂は、約380万トン。(=日本人約40万人分のCO₂の排出)



今、食料を廃棄するという無駄だけではなく、ゴミとして焼却してCO₂を排出し、輸送するためのエネルギーも一緒に捨て、無駄に無駄を重ねているのが現状です。

サンシン電気(本社)は、ゴミを減少させています。更に、ゴミをリサイクルに回すことでCO₂削減をはかっていますが、各ご家庭でもリサイクルに出せるものを出していくことで、CO₂削減に貢献できます。また、生活に必要な分を購入するように心掛けることで、ゴミの廃棄量を削減することができますよ

事務局

環境問題の基本的知識を再認識するのに、エコ検定の問題を役立て、環境問題の知識を共有していきたいと考えております。

環境に関する技術やモノづくりは日々研究が進み、社会システムも着々と進化しています。しかし、それらを動かし、享受するのは“人”そのものです。「環境社会検定試験®(eco検定)」では、幅広い知識をもって社会で率先して環境問題に取り組む“人づくり”と、環境と経済を両立させた「持続可能な社会」の促進を目指しています。



2009年度第7回(第8問抜粋)より出題

次の語句の説明として最も適切な文章を、下記の選択肢から一つ選んで下さい。

ア) 猛暑日

[選択肢]

夜間の最低気温が25 以上の日
1日の最高気温が30 以上の日

1日の最高気温が25 以上の日
1日の最高気温が35 以上の日

イ) 黄砂

[選択肢]

工場などから排出されるばいじんや粉じん、ディーゼル自動車の排気ガスに含まれる。

工場からの排煙や自動車の排気ガスなどに含まれる硫黄酸化物や窒素酸化物が、大気中で太陽光や炭化水素、酸素、水などの働きによって強い酸性を示す物質に変化し、雨や雪に溶け込んで降ってくる。

天然に産する繊維状ケイ酸塩鉱物で、その繊維がきわめて細いため、大気中に飛散しやすく、人間が吸引すると肺に達し、じん肺や中皮腫の原因となるとされている。

ゴビ砂漠やタクラマカン砂漠などの乾燥地帯から、大量の微細な砂じんが風によって吹き上げられ、上空の偏西風に乗って飛来したのちに広い範囲で地上に降下する。

ウ) 光害(ひかりがい)

[選択肢]

乾燥、半乾燥、乾燥半湿潤地域におけるさまざまな要素(気候変動および人間の活動を含む)に起因する土地の荒廃。

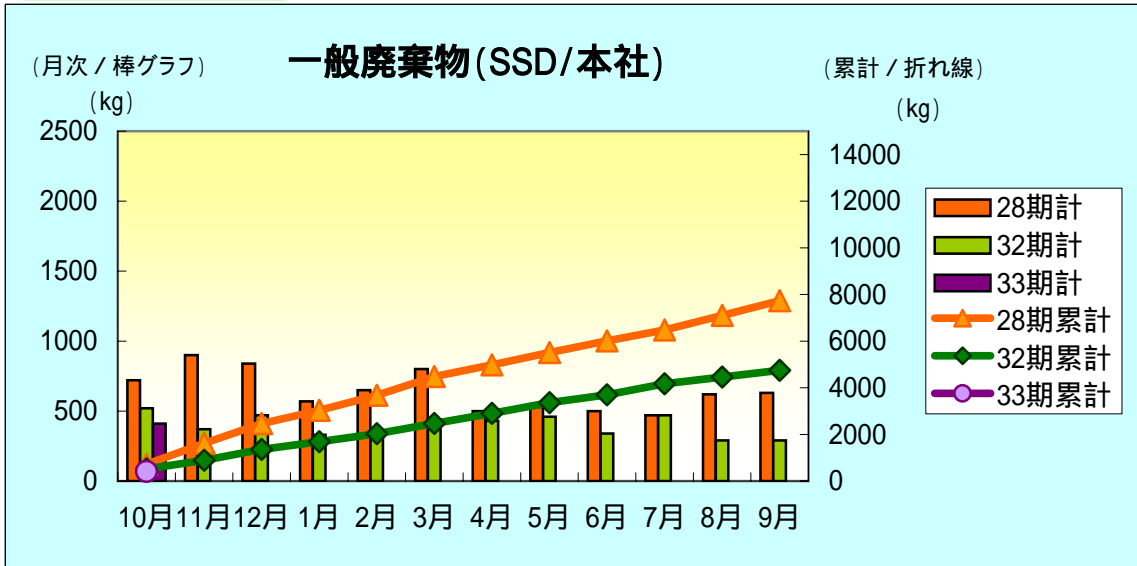
都市化、交通網の発達などによる屋外照明の増加、照明の不適切または過剰な使用などにより、信号などの重要情報に対する認知力の低下、農作物や動植物への悪影響をもたらす。

9月から10月の南極の春にオゾン層が急減し、オゾン層に穴があいたようになる。オゾン層が破壊されると、地表に届く紫外線が増加し、皮膚がんや白内障などの疾病が増加するおそれがある。

農作物に地下水を汲み上げてまき続けることなどにより、わずかな塩分を含んだ地下水が乾燥する夏の時期、凝結して地表付近の塩分濃度が上昇して草木が育たなくなる。

解答は、次のページ下にあります。 皆さん、わかりましたか？！

SSD(本社)

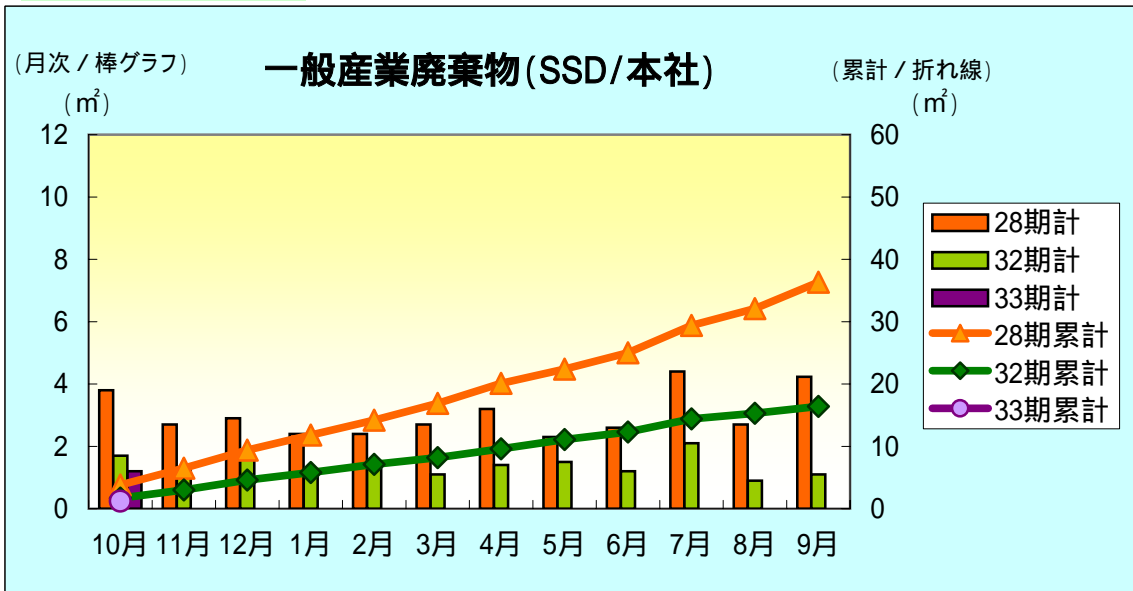


考察:

前年同月比、約2割削減しています。

事務局

SSD(本社)



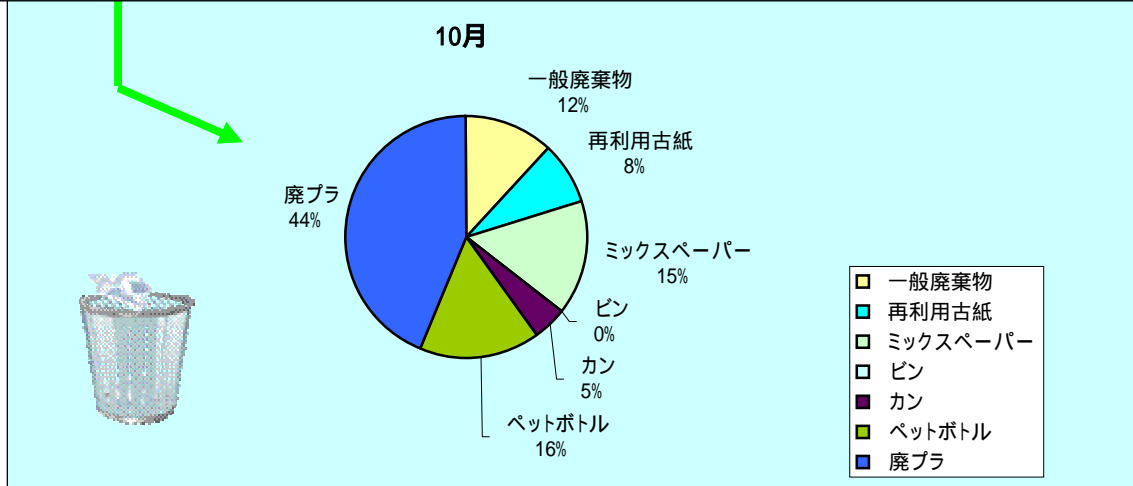
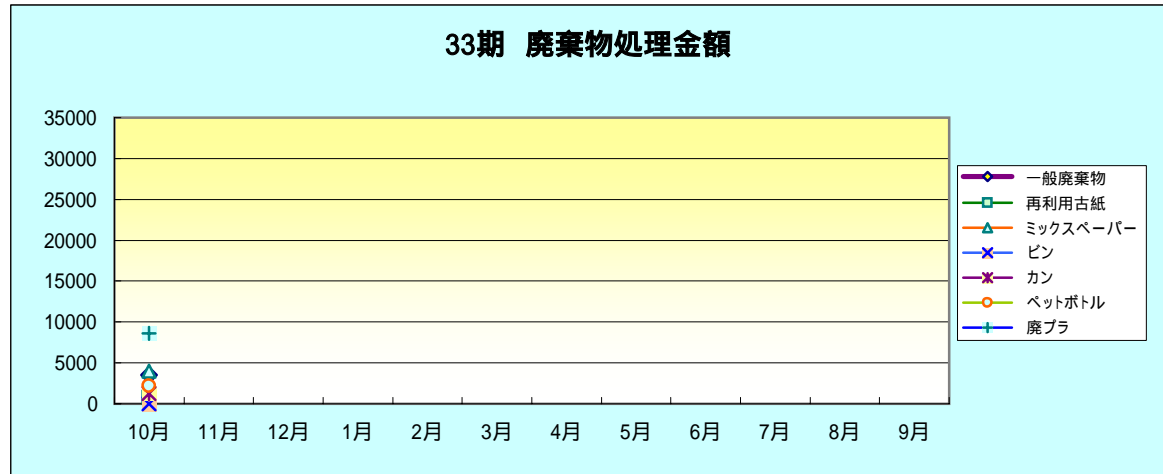
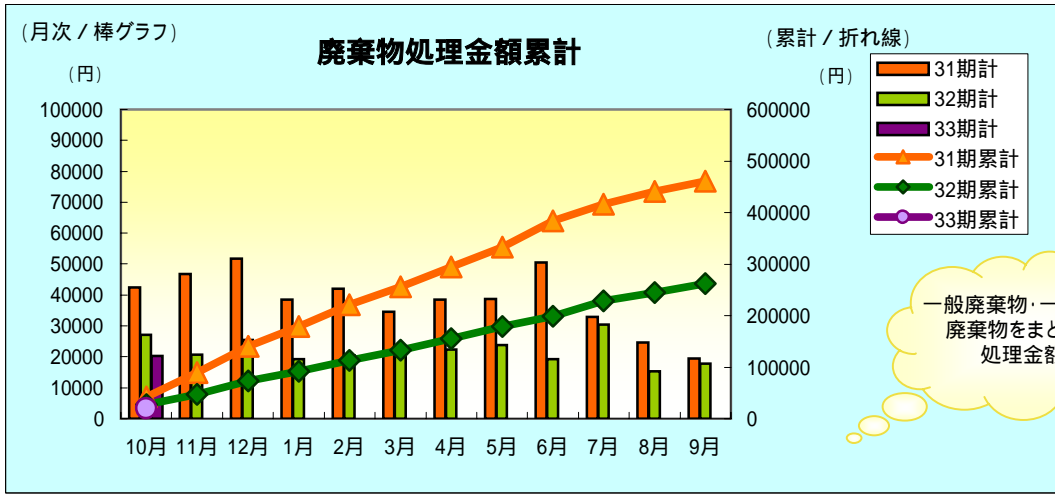
考察:

前年同月比、約3割削減しています。

事務局

【2009年度第7回(第8問抜粋)解答】 ア) イ) ウ)

SSD(本社)



考察:

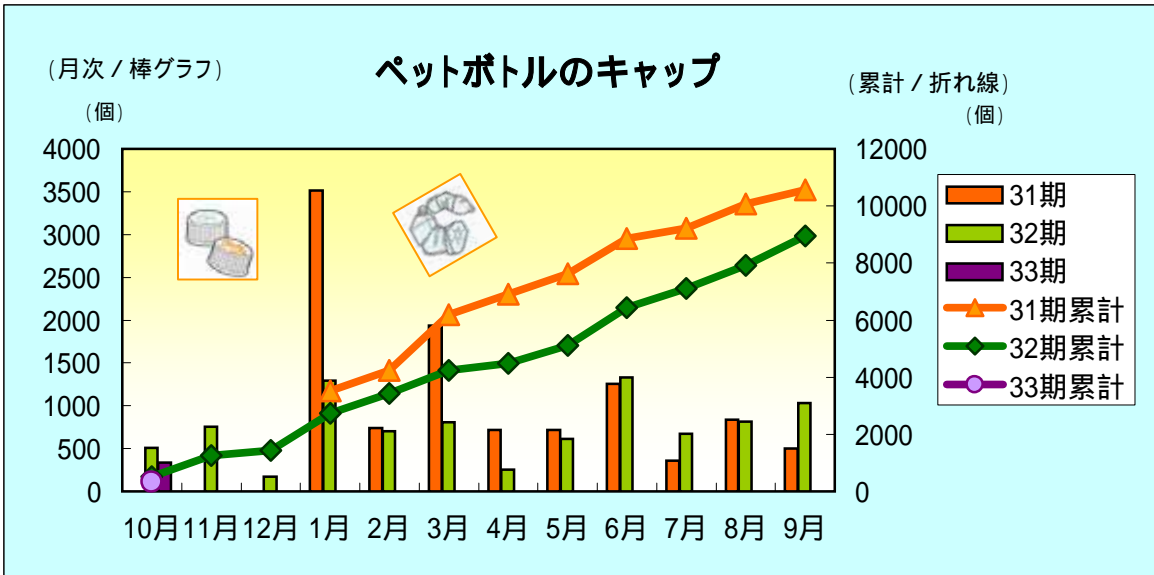
廃棄物処理金額累計が前年同月比、約2.5割削減しています。事務局

全社活動項目 (Part-4/7)

ペットボトルのキャップ

SSDグループ全社

換金率: PETボトルキャップ
400個(約1kg) = 10円



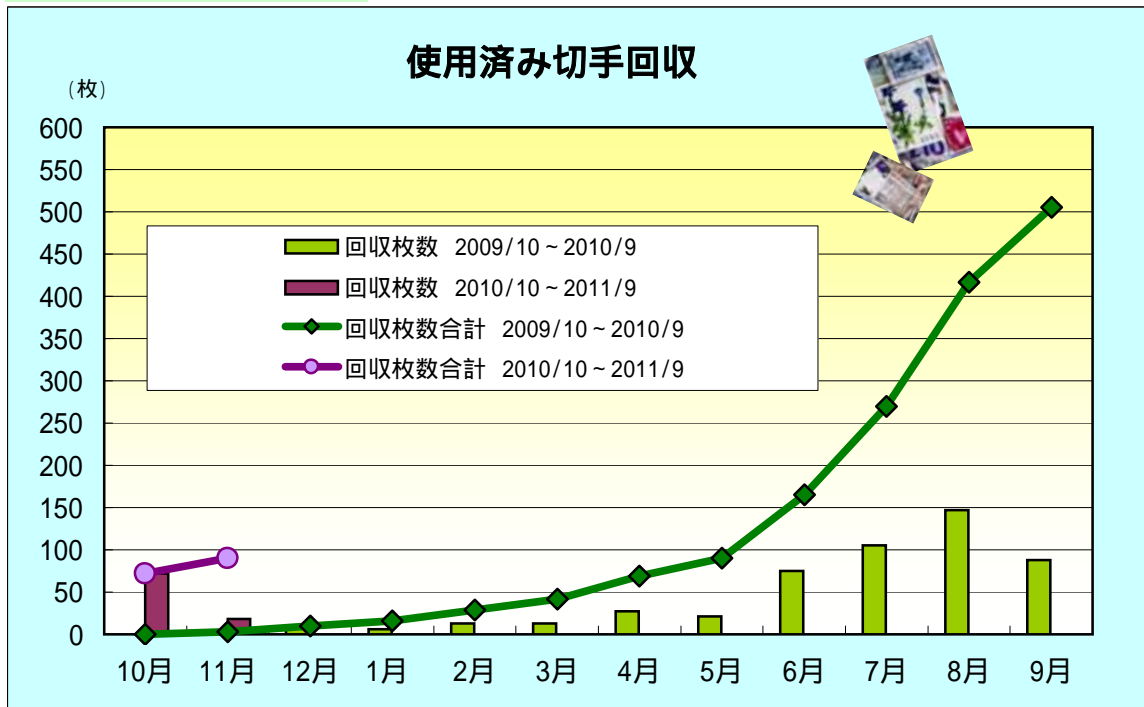
考察:

今期もペットボトルのキャップの回収に、ご協力宜しくお願いします。

∨(* ^*)ノ~

(事務局)

SSDグループ全社

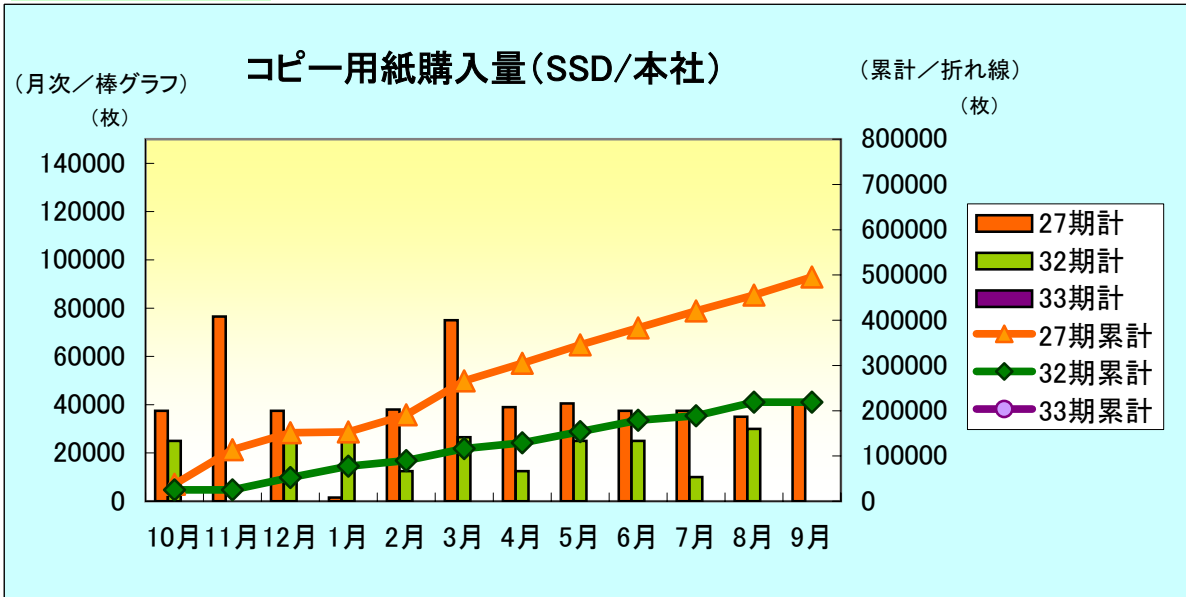


使用済みの切手もペットボトルのキャップ同様に回収していきます！

この活動は、サンシン本社 1Fグループが起案し進めています。

(事務局)

SSD(本社)

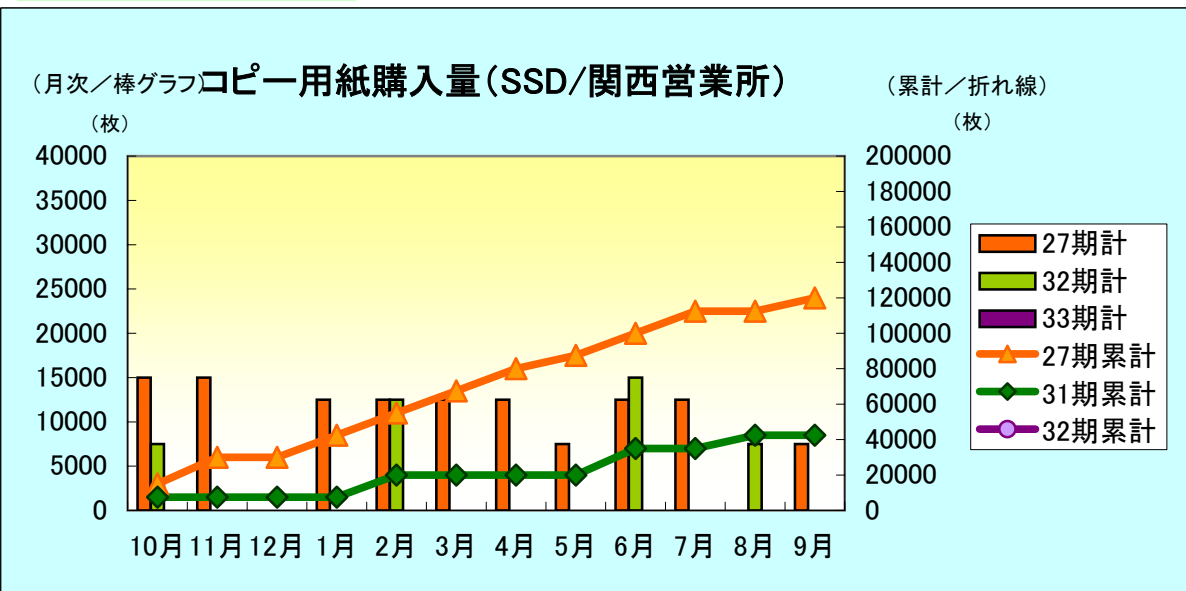


考察:

今期も継続して、その効果を監視してまいります。

(事務局)

SSD(関西営業所)

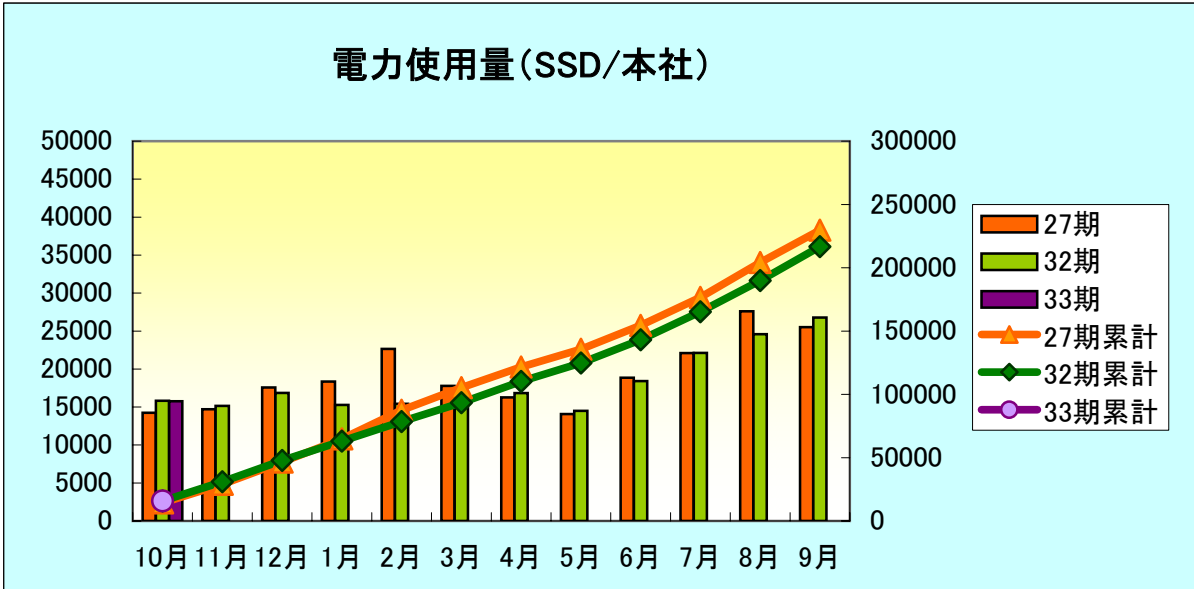


考察:

今期も継続して、その効果を監視してまいります。

(事務局)

SSD(本社)

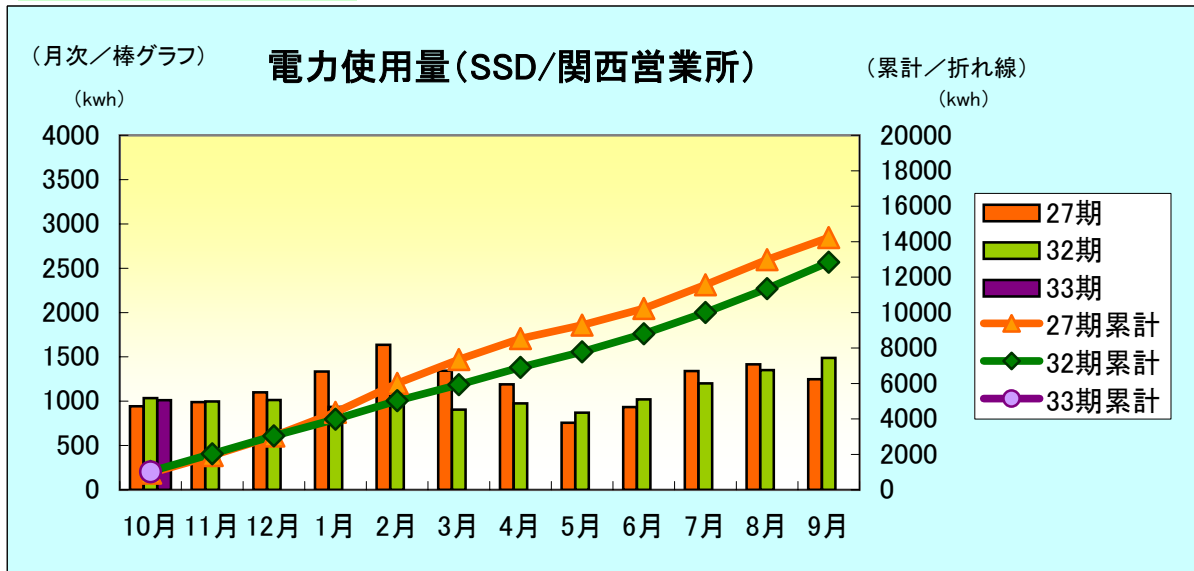


考察:

継続して監視測定中

(事務局)

SSD(関西営業所)

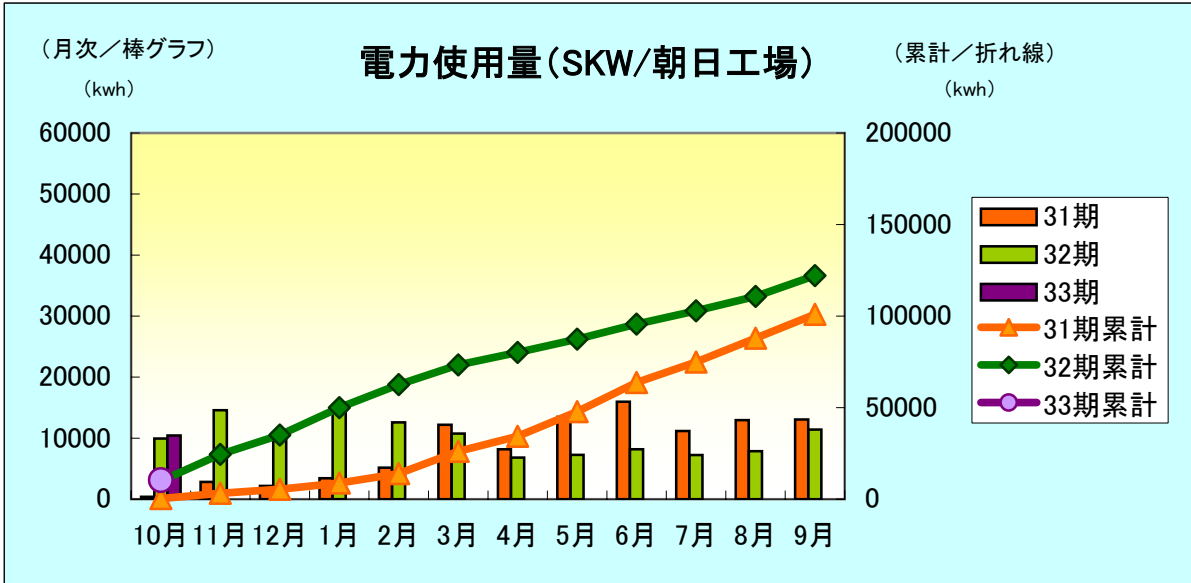


考察:

継続して監視測定中

(事務局)

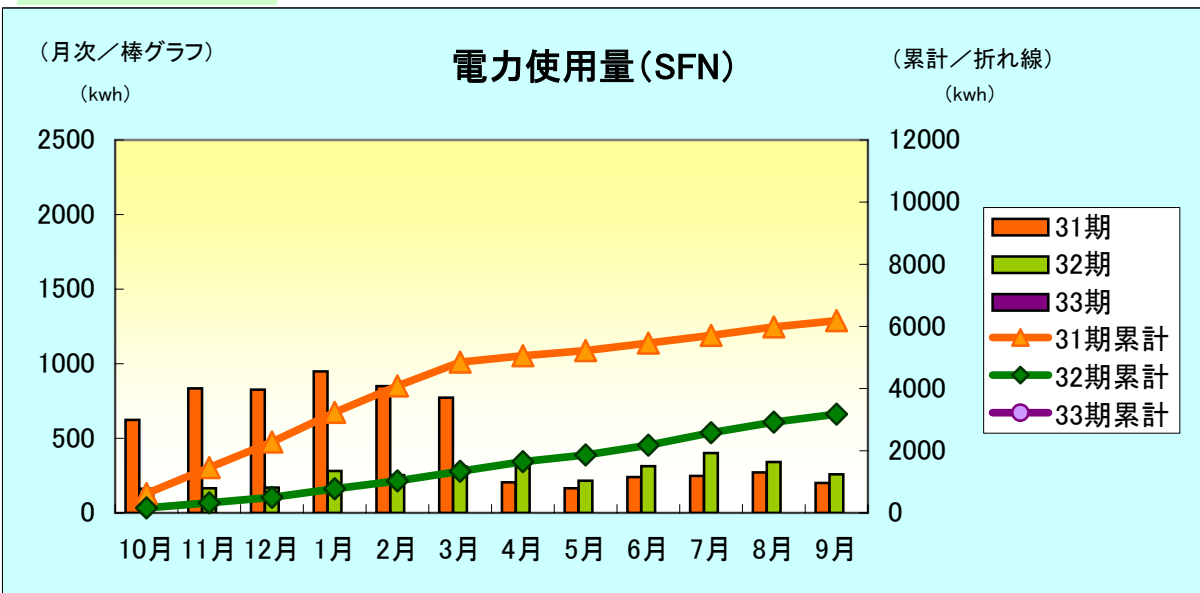
SKW(朝日工場)



考察:

本格量産が年末から予定されています、継続して監視測定中
(事務局)

SFN



考察:

継続監視測定中
(事務局)

環境条例の基本と管理のポイントセミナー参加のご報告

環境委員の一員として新光和的場さん、サンシン電気(本社)近藤さんが、10月25日に大宮ソニックシティで開催された「環境条例の基本と管理のポイントセミナー」に参加しました。

主なポイントは国で定められている環境法だけではなく、市区町村で制定されている条例まで管理する必要があるとのことでした。実際に企業では環境法に気を取られ、条例に関しては管理が手薄になることが多いと具体的な例をもとに説明がありました。

現在、サンシン電気では国が定めた環境法はもちろん、練馬区の条例まで管理の対象としている為、問題はありますが定期的な見直しが今後必要となります。



興味深い点としては、国が採用を行う前に、温暖化対策の一環として東京都が「キャップアンドトレード方式の排出量取引制度」(CO2排出権の売買)を開始したということでした。※下記参照願います。

現在は都内の約1400の大規模事業所が対象となっていますが、今後は対象範囲が拡大する可能性は大きくあります。



<PDCAサイクル>

現在までの流れを見ると環境法・市区町村の条例はより厳しくなる方向ですので、PDCAサイクルを活用し、今後も環境を意識した活動を行っていく必要があります。又、同時に環境委員を中心とし、従業員一人ひとりが環境への配慮が出来る様な取り組みを行なっていきたいと思いました。

セミナーの内容については、その場で使用した資料をご覧になって下さい。

【保存先】 FSL :「¥¥honshafile01¥サンシングループISO14001¥教育・訓練¥環境管理物質教育資料」
ファイル名 :「20101025 環境条例の基本と管理のポイントセミナー」

※「キャップアンドトレード方式の排出量取引制度」

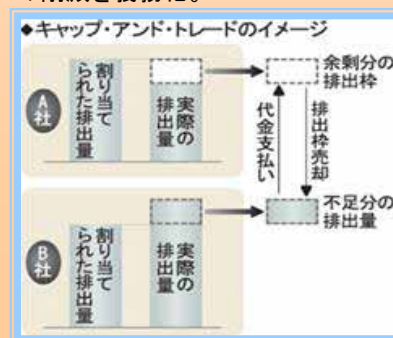
CO2排出量の上限(キャップ)を割り当てて、過不足分を取引(トレード)させる仕組み。都内の約1400の大規模事業所を対象とし、今後5年間で平均7%の削減を義務化。

目標とする排出量を上回った分は、排出枠の購入で補填。
目標以上に削減できれば、その分の排出枠を売却できる。

2015年度中に未達成であった場合は、措置命令として未達成分の1.3倍の排出枠を購入する。
措置命令に従わない場合は違反事実を公表し、罰金50万円を科したうえ、都知事が取引を代行し、違反企業に費用を請求するという仕組み。

※右の図に関しては下記から引用しております

<http://www.yomiuri.co.jp/atmoney/trend/dr/20071127md01.htm>



サンシングループとして、各種セミナーへの参加を奨励し、環境条例など理解を深めるよう進めています。

(事務局)